

保育所の自己評価

鈴鹿市立白子保育所

「保育所の自己評価」とは「保育所保育指針」に基づき、保育の質の確保・向上を図ることを目的に、全職員の共通理解のもと、保育士及び保育所が自ら行う「保育内容の評価」です。評価の結果をもとに、組織としてよりよい保育に向けた改善を行い、さらなる保育の充実に向けた取組を行っていきます。

以下の観点と評価項目に沿って自己評価を行いましたので、結果をお知らせします。

○「保育所の自己評価」の記入の仕方

- A … 十分に取り組んでいる B … 概ね取り組んでいる
 C … 取り組んでいるが十分ではない D … 取り組めていない

I 保育の基本的理念と実践に係る観点

評価項目		評価	評価項目	評価
最善の利益の考慮	職員は、一人一人のこどもの気持ちに配慮しこどもの人権を尊重している。	A	こどもを尊重した保育の提供について共通の理解を持つための取組を行い、十分に配慮している。	A
	個人情報保護について職員全体で確認し、十分に配慮している。	A	虐待の防止や不適切な養育等が疑われるこどもの早期発見のための取組を行っている。	A
こどもの理解、保育の関わり及び内容、保育の環境、	こども一人一人を受容し、その発達の過程や生活環境などの理解を深めて、働きかけや援助が行われている。	A	意欲的に遊び、遊びを通じて豊かな経験や友だちとの協動的な体験ができる環境構成や取組の工夫をしている。	A
	こどもが主体的に活動し、自分を表現し、友だちの表現を受け入れる力が育つように支援している。	A	こども同士の触れ合いの中で、違いを認め合い、他のこどもとの生活を通して共感したり、尊重し合える心が育つよう援助している。	A
	保育時間の長いこどもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	A	異年齢や身近な人との触れ合いや交流を通し、一緒に活動する楽しさや人とのかかわり方を知る機会を大切にしている。	A
	こどもが楽しく、落ち着いて食事を摂れるような雰囲気作りに配慮している。	A	食事のメニューや味付けなど、こどもの状況を職員と共有し工夫している。	A
	こどもの個人差や体調(アレルギーを含む)、文化の違いに応じた食事に対応している。	A	保育所の食育に関する取組を保護者に伝える活動をしている。	A
	怪我や病気を防止するため、日頃から身の回りの危険についてこどもに伝えている。	A	健康診断や歯科検診等の結果について、保護者や職員に伝達し、それぞれの保育に反映させている。	A
	定期的にこどもの呼吸、体位、睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記入している。	A	休息(昼寝を含む)の長さや時間帯はこどもの状況に配慮している。	A
	基本的な生活習慣を身に付け、意欲的に体を動かす活動ができるよう援助している。	A		
基づくの見通しに	全体的な計画は、保育方針や目標に基づき、こどもの発達過程を踏まえて、保育の内容が組織的、計画的に構成されている。	A	指導計画を作成するにあたっては、クラスの実態や一人一人のこどもの発達過程や状況について、職員の共通認識のもとに作成している。	A
	月の指導計画や週、日案の計画、個別の指導計画等、職員間で定期的に話し合う機会を設け、具体的で実践的な計画が作成されている。	A		

II 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点

評価項目		評価	評価項目	評価
支店入所との連携と子育て家庭	日常的に、家庭でのこどもの様子を保護者との対話を通して確認し、こどもが健康で安全に生活できるようにしている。	A	園での様子を伝え家庭での様子を聞く等、家庭と連携しこどもの育ちを保護者と共に考え、共有している。	A
	保育所の保育に関して、保護者の考え方や提案を聴く機会を設け、相互理解を図るように努めている。	A	就学がスムーズに行われるよう、保育の方法や保護者との関わりに配慮している。	A
地域における保護者等に対する子育て支援地域	特別保育(一時預かり保育等)のための環境が整備され、保育内容や方法に配慮している。 *実施園のみ		地域子育て支援センターの役割を理解し、職種の専門性を生かした支援を行っている。 *実施園のみ	
	地域社会に対して、保育所に関する情報を開示している。	A	地域、関係機関との共通の課題に対して、解決に向けて協同し、具体的な取組を行っている。	A
	地域の子育て支援の拠点となるために、保育所が有する機能を地域に提供し、地域の子育て支援ニーズを把握、連携するように努めている。	A	地域住民と交流を図り、保育や施設理解が深まるような取組を行っている。	B
	近隣の小学校との交流活動や情報共有等、連携を図っている。	A	近隣の保育所、幼稚園等との交流活動や情報共有等、連携を図っている。	B

III 保育の実施運営・体制全般に係る観点

評価項目		評価	評価項目	評価
組織の資質向上としての基盤の整備・社会的責任の遂行・健康及び安全管理・職員	所長は、保育理念、運営方針について、具体的な内容となるよう明文化し、職員の理解が深まるような取組を行っている。	A	保育理念、運営方針について、保護者の理解が深まるような取組を行っている。	A
	所長は、自らの役割と責任を職員に対して、会議や運営方針で表明している。	A	保育の質の向上に意欲を持ち、その取組に指導力を発揮している。	A
	職員間の共通理解と協同性を高め、組織向上のための取組を行っている。	A	運営や業務の効率化と改善に向けた取組を行っている。	A
	組織運営と保育内容について、定期的に評価を行う体制を整備している。	A	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知、機能している。	A
	遵守すべき法令、規範、倫理等を正しく理解するための取組を行っている。	A	緊急、事故防止、災害時における安全計画を作成し、こどもの安全確保のための体制を整備する取組を行っている。	A
	職員の育成、評価、報酬が連動した人材マネジメントを行っている。	A	保育に関わる全ての職員(会計年度任用職員等)と連携を取るための取組がなされている。	A
	実習生の受入れと育成が積極的に行われている。	A	保育の資の向上に向けて、研修の計画や機会の確保に努めている。	A
	職員の就業状況や意向を把握し、必要があれば改善する仕組みが構築されている。	A		

【総評】

・こども一人一人に配慮し、人権を尊重するとともに、こども理解に努め、その育ちにふさわしい保育の計画を作成し、実施していくことを心掛ける。

・保育の質を高めるため、園内の研修や、外部の研修に積極的に参加をして、職員の資質向上に取り組む。

・こどもの健康に留意し、ことに猛暑に関する暑さ対策は、毎日、計測をして暑さ指数をはかるとともに、家庭と連携をしてこどもの体温をはかり、適切な環境の中で生活ができるよう配慮をした。

・職員間で安全に関して意識をもち、危険個所の点検をするるとともに、災害時の対応や、持ち出し用品などを訓練時に確認していくようにした。

・地域の施設、保育園との連携は、交流機会が少ないため、まずは情報共有などをしながら、理解を深めたい。

・5歳児それぞれの就学先の小学校と連絡をとり、こどもの就学がスムーズに行われるように努める。特に、就学児の多い愛宕小学校とは園児の訪問も行い、小学校への期待がもて、橋渡しができるようにした。

・今年度は、近隣公民館で1回、出前保育を行う。荒天にもかかわらず、15組以上の参加があった。来年度は地域の児童民生委員の方より、更に行ってほしいと希望された。回数も含め、前向きに検討したい。